



# きらめく風

すすんで学ぶ子ども 心ゆたかな子ども 体をきたえる子ども

## 情けは人のためならず

旭町小学校副校長 吉井 広明

電車の中で席を譲るとか、落ちているゴミを拾って捨てるとか、忘れ物をした友達に物を貸すとか、善行というのはどうしてした方がよいのでしょうか。それは自分のためになるからだと私は思います。

電車で座っているとき、お年寄りが乗ってきたことに気づいたら、「席を譲ろうかな」と思います。「でも、断られたらどうしよう」こんなことを考えているうちに隣の人が先に譲ってしまった...。「消しゴム貸して」と言われたけれど断った。困っている友達の様子を見て、「やっぱり貸してあげればよかったかな」ちょっとくよくよします。また、家族や友達にいやなことを言う、悪いことをしたのに謝れなかった。こんな経験をする心にもやもやがたまります。もやもやがたまると心も体も調子がおかしくなります。逆によいことをして「ありがとう」なんて言われたらうれしいですし、言われなかったらちょっと寂しいですが、もやもやをためるよりはずっとましです。「何で自分がやらないといけないの」「私が落としたゴミではありません」「先生がやれば」などは校内で時々聞かれる言葉ですが、よい行いをすれば自分が気持ちよい、相手もうれしい、それを見ている人もよい気分になれます。まさに、自分よし、相手よし、世間よしではないでしょうか。

さて、6月はふれあい月間です。いじめ・不登校・暴力行為の防止に向けて、アンケート調査や学級指導など防止に向けた取り組みを行います。子供たちの中にはよい行いをしても一文の得にもならないからやるだけ損だと考えている子供もいます。人に親切にして心が温まることや素直に謝ってすっきりすることの良さを学校生活の中で味わうことで人に親切にすることは相手のためになるだけでなく、自分のためにもなるし、周りで見ている人のためにもなるということも伝えていきたいと思います。

